

とくつてかかったんだとお。するとその坊さんは「きさまはまだ女の人にとらわれていたのか。わしはもうとつくに忘れていたぞお。」といったと。禪坊主の涼しい目が空に吸われていたんだとお。

### 商家のあるじのなし

むかし、たいへん名高い坊さんがいたんだとお。この坊さんがある日だん家をひとめぐりしようと朝の勤行を終えたあと出かけ、町の商家のところを通りすぎたんだとお。そうすると、その主人が帳場にすわつて、傍らに大福帳を置き、パチパチそろばんをおいていたんだとお。坊さんはそこで声をかけた。「なにしとるか。」と。そうするとそろばんから手をやすめて、その家の主人はこういったんだとお。「大はんにや経を読んでおります。おかげでお経の功德で家族が飢えずにくらしております。もつたいのうございます。」坊さんは答えたどう。「よいぞおその信心は。福田のめぐみはつきぬまい。」坊さんは主人の器量を思いめぐらし、ここにも仏の弟子が一人いるわい。」とそう思ってまたすたと歩き出したんだとお。